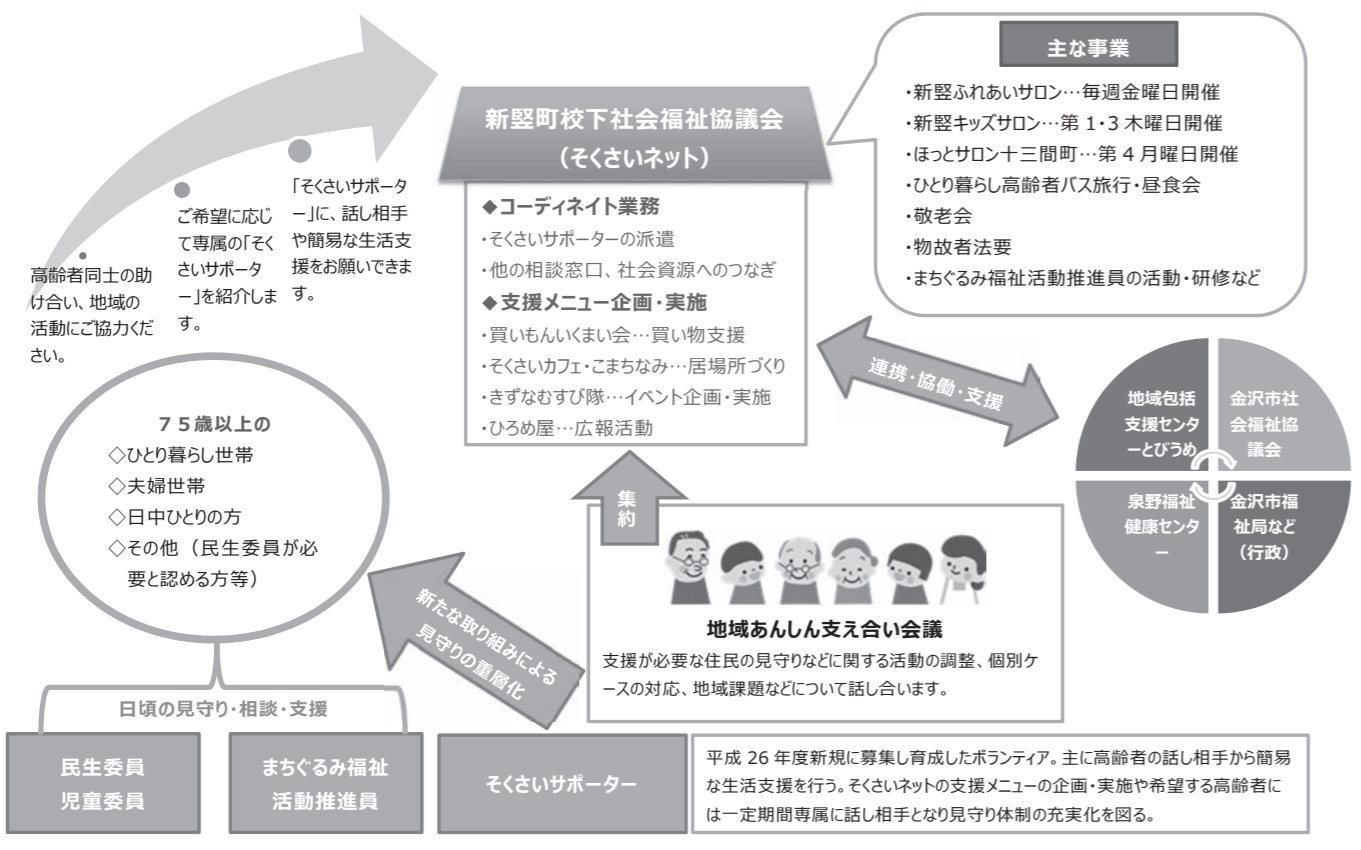


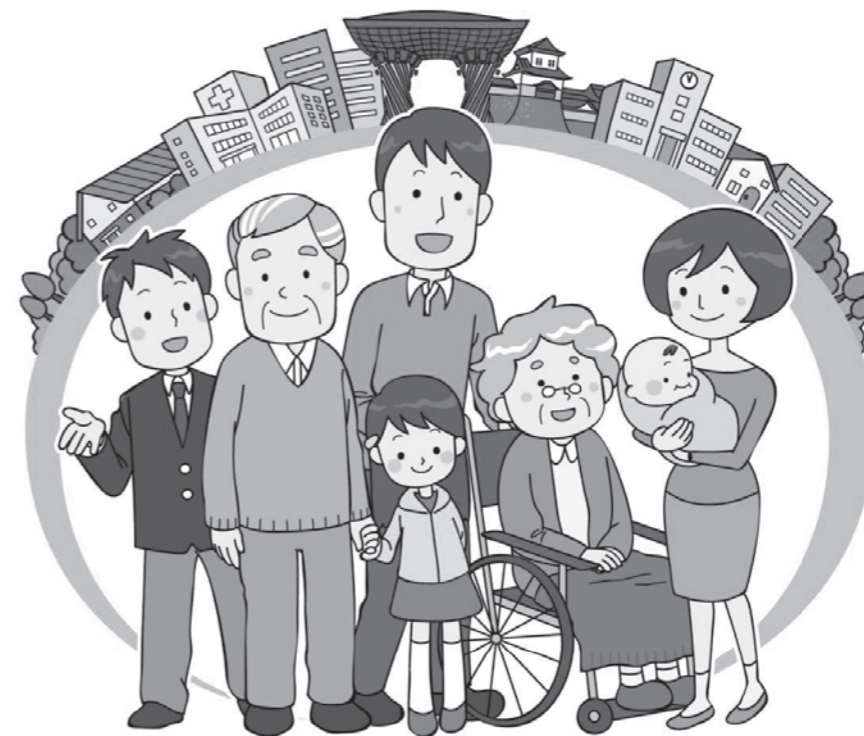
新野町校下社会福祉協議会 そくさいネット イメージ図



一緒にみつめましょう

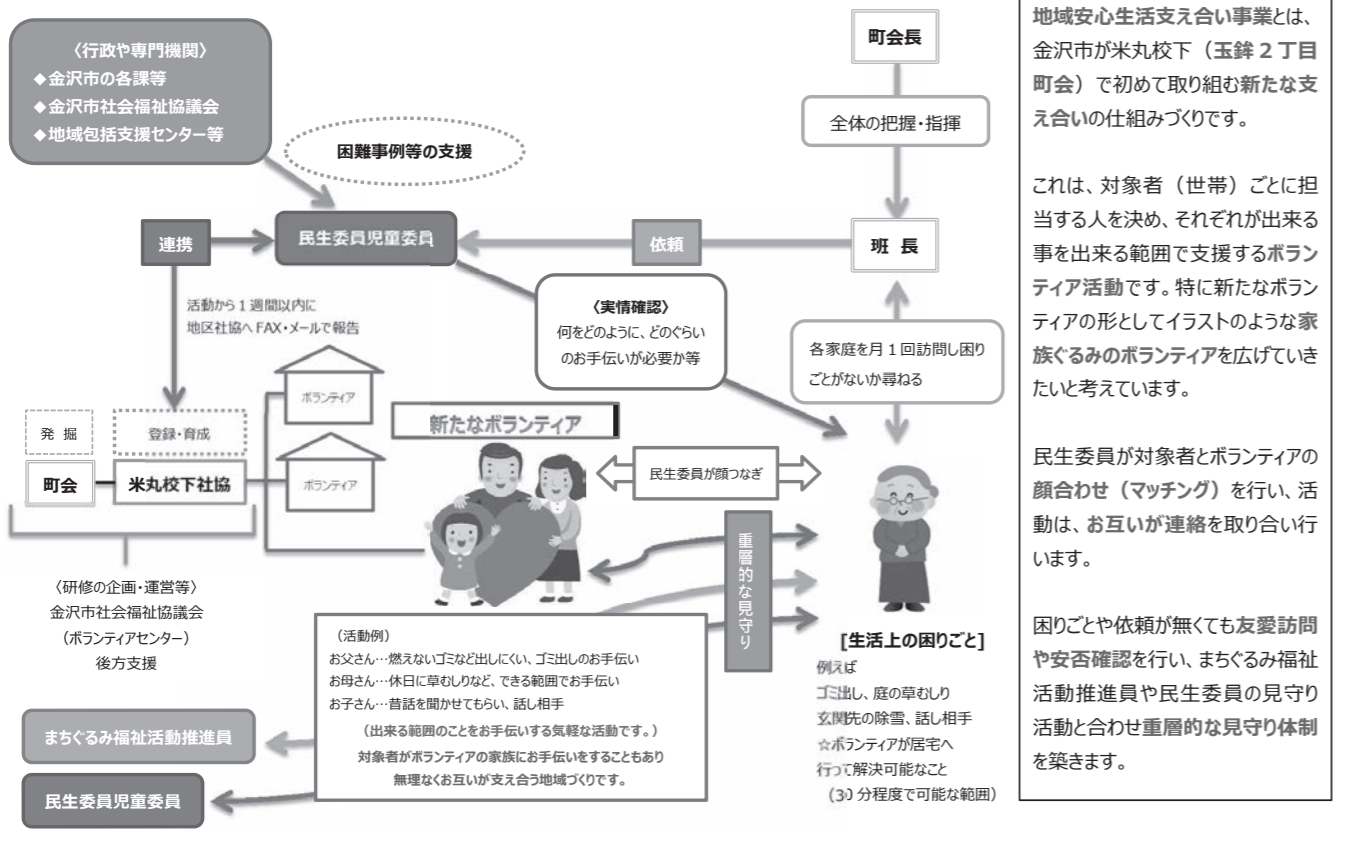
私たちのまち、支援のあり方

～みんなで支え合う地域社会をめざして～



金沢市では、日常生活で支援の必要な高齢者を地域住民等が協力して支える「見守りネットワーク」や「新たな生活サポート体制」の構築を目指した取り組みが各地区で始まります。

米丸校下 玉銚2丁目町会 地域安心生活支え合い事業（イメージ図）



地域安心生活支え合い事業とは、金沢市が米丸校下（玉銚2丁目町会）で初めて取り組む新たな支え合いの仕組みづくりです。

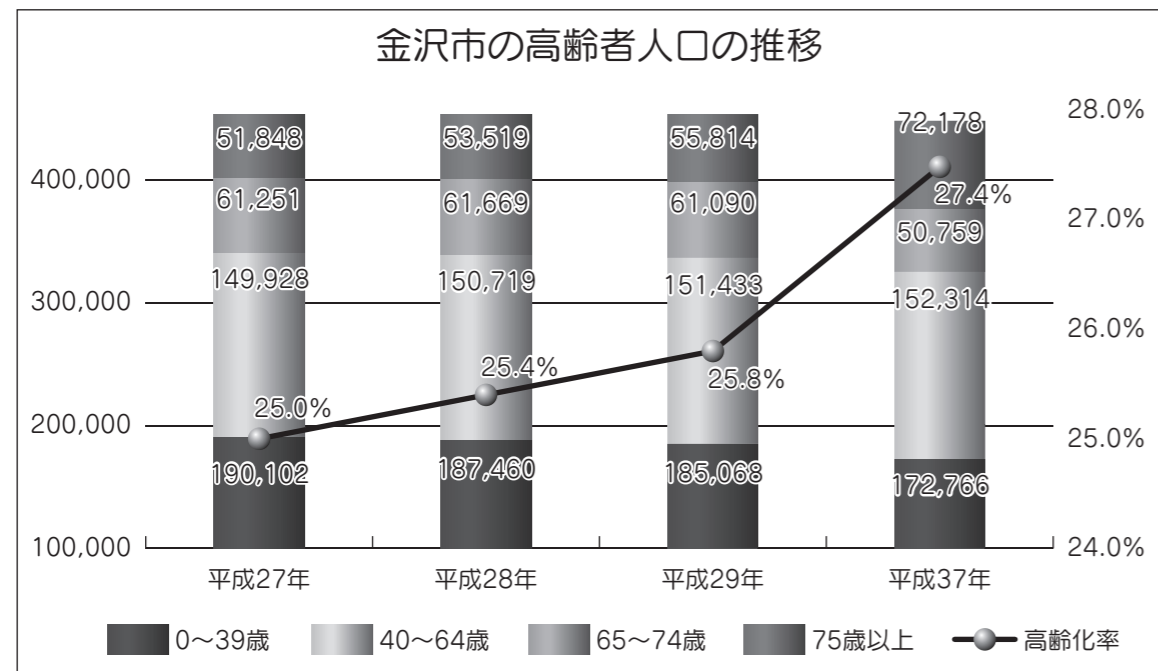
これは、対象者（世帯）ごとに担当する人を決め、それぞれが出来る事を出来る範囲で支援するボランティア活動です。特に新たなボランティアの形としてイラストのような家族ぐるみのボランティアを広げていきたいと考えています。

民生委員が対象者とボランティアの顔合わせ（マッチング）を行い、活動は、お互いが連絡を取り合い行います。

困りごとや依頼が無くても友愛訪問や安否確認を行い、まちぐるみ福祉活動推進員や民生委員の見守り活動と合わせ重層的な見守り体制を築きます。

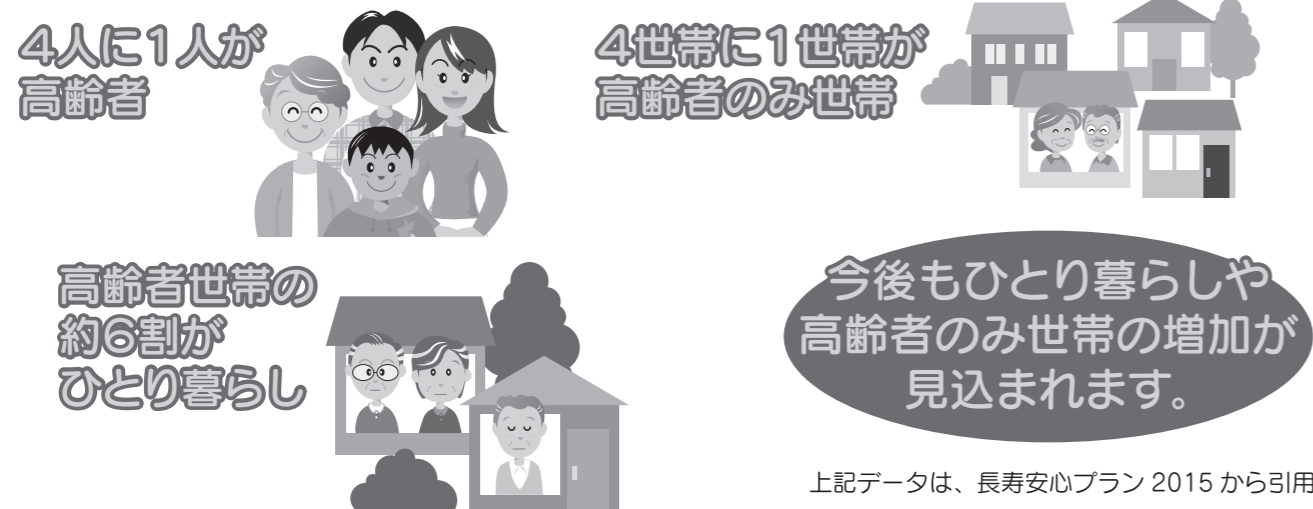
1. 高齢者人口の推移

- 平成 27(2015)年には「ベビーブーム世代」が前期高齢者（65～74 歳）に到達しました。その 10 年後、（平成 37(2025)年）金沢市の高齢者人口は、約 12 万 3 千人（1 万人増）に達すると推計されています。
- これまでの高齢化の問題は、高齢化の進展の「速さ」の問題でしたが、平成 27(2015)年以降は、高齢化率の「高さ」（＝高齢者数の多さ）が課題になると予想されます。



2. 支援を必要としている高齢者の増加

少子高齢化がすすみ、ひとり暮らしや夫婦だけの高齢者世帯が増えていきます。認知症や足腰が弱り、日常生活に支障を来している高齢者も少なくありません。また、高齢者の中には、病気やトラブルに巻き込まれても助けを求められず問題が深刻化することがあります。



3. 見守りと個人情報の取り扱い

個人情報保護法に対する誤解やプライバシー意識の高まりを受け、見守りネットワークで要支援者を見守るための情報が共有できない場面が多々生じています。個人情報保護法は、個人情報の保護に重心を置きつつ、個人情報の適正・効果的な利用が新たな産業創出や活力社会・豊かな国民生活の実現に資するという側面を有しています。

今後、地域あげでの福祉活動を展開していく際、地域内において住民が互いに情報を共有し合い、協力していくことが必要不可欠となります。そのため関係者・団体が把握している個人情報（プライバシーに関することを含む）を、本人の同意を得ながら共有していくことが必要になります。

地域ぐるみで、一人ひとりを支えていくために、隣近所のお互いさまの関係性の強みを生かし、プライバシーに配慮しながら支援を必要としている方の同意を得ていく地道な取り組みが大切です。一人ひとりの同意を得ることが、本人との信頼関係を生み、その後の支援をより有益なものにしていくことと思います。

4. 地域安心生活支え合い事業の取り組み（ちょっとしたボランティア活動）

地域ぐるみで、ひとり暮らし高齢者等に対し、地域住民ができる範囲のことをお手伝いする気軽な活動です。向こう三軒両隣や、親戚付き合い的な雰囲気を目指しています。お互い様の関係性の中で住民ボランティアが除雪やゴミ出し、電球交換などの生活支援を行う仕組みをつくります。（地区社会福祉協議会実施事業）

◆ニーズ（生活に必要なだが満たされていないこと）調査 ◆ニーズに基づく支援内容・方法 ◆ちょっとしたボランティアの募集など

実施地区 H28 年度から 8 地区ずつ着手

年度	H25～	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
地区数	2	10	18	26	34	42	50	54

H25～H27 年度の 3 年間、モデル地区（新竪町校下および米丸校下）において、地域住民主体の生活サポート体制づくりの手順・方法を研究しました。今後は、他の地区へ順次拡大していく予定です。